

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372101006		
法人名	特定非営利活動法人 今が一番館		
事業所名	グループホーム今が一番館 東棟		
所在地	岩手県滝沢市妻の神157-3		
自己評価作成日	平成27年9月24日	評価結果市町村受理日	平成28年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0372101006-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『今が一番、安心してください いつもあなたの傍に私があります』の介護理念に基づき利用者に寄り添い、安心して生活できる環境を提供していけるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム今が一番館」は、いわて銀河鉄道巣子駅の東側、岩手山が西側に眺望できる田園地帯にあり、自然環境に恵まれている。運営理念に「安心してください、いつもあなたの傍に私があります。」を掲げ、利用者にとって馴染みの職員が寄り添い、安心安全のケアを実践している。事業所方針として、職員の資格取得に取り組み、又積極的に研修会・勉強会が実施されている。そのことで職員のスキルアップと意欲の向上が図られ、管理者と職員が一体となった高品質のケアサービスにつなげている。運営推進会議において、毎回テーマを設定し、活発な意見交換を行っており、介護の質の向上はもとより、地域との交流促進が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を大きく書いた紙をホールのよく見える所に貼り、いつでも見えるようにすることで共有、実践に繋がっている。	法人の理念、事業所の運営方針は、管理者と職員が一緒に作り上げたもので、その理念は、ホールに掲示している。月1回の勉強会が開かれ、その場で理念を共有して実践につなげており、利用者に安心感を与えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの来所(民謡、上映会、傾聴など)	事業所として、地域の自治会に加入している。地域公民館で開催する敬老会、お祭りなどに参加する等、地域との交流をもっている。また傾聴、民謡、マジック等のボランティアを受け入れている。法人一番館祭りには、地域の方々、家族等にきていただき、活発に交流している。地域住民から柿の差し入れがあり、利用者が干し柿づくりをしている場面が見られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成、岩手県立大学への協力、実習生の受け入れ	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、ご家族、自治会等から参加して頂き、ホーム内の近況報告も兼ね、毎回テーマを決めて取り組みなどのアドバイスを頂いている	本会議は、2ヶ月に1回、定例開催されている。その内容は、近況報告の他、食事、災害、看取り、介護制度等、多岐にわたり積極的な意見交換が行われている。そこでの意見は、ケアサービスの向上、事業所の運営、地域との交流等に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族介護者教室の委託受け入れ	滝沢市から家族介護教室を委託され、講義中心で年2回実施している他、平成26年4月から認知症街角相談室を開設しており、地域の認知症ケアに寄与している。また市主催の地域ケア会議、ボランティア祭にも参加しており、市との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受けた職員を通して勉強会で話し合い実践している	身体拘束をしないケアを基本に実践している。外出する利用者には、職員が利用者と一緒に行動する、見守りをする等して対応している。玄関の施錠は、夜間以外は行っていないが、東棟は、2匹の猫をペットとして飼っている事情があり、施錠している。ペットを飼うことに関しては、家族アンケートを実施して意向を確認している。また、声がけにも工夫し、利用者の感情を理解した対応を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員はそれぞれ資格取得のため勉強しているが、その他に関係冊子の配布		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長がいない場合は、ユニットの職員が対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートの実施、運営推進会議で出席者の方々からの意見を頂き、満足していただけるよう努力している	随時、家族アンケートを行い、利用者・家族の意見や満足度を伺っている。運営推進会議や家族の面会時に話を聞いて、そのとき把握した意見・要望等をケアに反映させている。家族の方と食事を共にして、感想を頂くこともしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り、毎月の勉強会などで話し合うことができる。	管理者は、毎月、職員全員が参加する勉強会の場で職員とコミュニケーションを取っている。また、レク・危機管理・広報の3委員会を設けており、それぞれの委員会で職員から発案されたものは、できる限り実現している。その他、管理者は、職員の勤務時間内に、毎日のように個別面談をして職員の意見等を把握するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を反映させた環境支援を心掛けている。持っている資格の手当て		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれに合った内容の研修などの参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと定例会、意見交換、交流会、大会の参加、救命救急講習会への参加呼びかけ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の様子を見ながら寄り添い、本人が安心して生活できるよう職員全員で取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前からの話し合いを大切にし、ご家族、本人の声をしっかり受け止める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設しているディサービスとの連携、隣接ユニットとの交流		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に行い、会話を楽しむ。また、意思疎通が困難な方であってもよく話しかける、介助時の声掛けを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の変化(様子)も気にかけてながらよく話を聴き、できれば通院にも同行して頂くなどし、日ごろの様子や今後の支援についても共に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から入居している方もいるが、兄弟、子以外の方でも面会に来られている。面会時ホーム内での様子など本人を交えお話しする事で以前の生活を知り得ることもでき、ケアに繋げていける。	家族面会時に、利用者を交えて話し合い、馴染みの人や場所を把握するようにしている。面会は、家族・親戚・友人等に広く働きかけている。思い出の場所、墓参等にも希望に応じて出かけている。職員の人事異動を少なくして、職員自身が利用者との馴染みの人になるように配慮した事業所運営をしている。利用者個々のアルバムを作成しており、家族等との思い出の共有やコミュニケーションに役立っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度化しているが職員が間に立ち、できる努力はしている。仲の良い利用者同士は席を隣にしたり、行動を共にすることにより、ホームでの生活を楽しくて頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移った場合には、様子を見て訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の希望に添えるよう努めている。	東棟・西棟とも、長年異動がない職員体制なので、職員は、利用者一人ひとりと一緒に過ごす時間が十分にあり、利用者のその思いや意向の把握が、より可能となっている。そうして把握した利用者の意向等は、「生活記録」に詳しく記録して、職員間で共有することにより日々のケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、本人との会話の中から読み取り、共有、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェック、その日の様子から、本人が出来ることを見極めていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、モニタリングを行い、職員全員で意見交換し作成している。ご家族の意見も取り入れられるよう、日々の会話を大切にしている。	ケアプランは、職員が利用者の日々の生活状況を記録した「生活記録」を基本としながら、毎月、カンファレンス、モニタリングを職員全員で行い、作成している。見直しは、3ヶ月ごとに行っている。生活記録には、管理者コメント欄がある。介護計画書には、家族氏名印欄、毎日の点検記録欄があり、工夫された書面となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活日誌へのこまめな記録、朝の申し送り、必要時シフトのスタッフで話し合い、他のスタッフとも共有するよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節を感じる外出、地域の敬老会やお祭りへの参加。天気の良い日のドライブ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会への参加、買い物などに出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医との連携により、今までと変わりなく医療を受けられるよう援助している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。看護師、事業所の協力医等と連携した受診体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送りで適切な対応ができるよう、情報を共有、指導を受けている。何かあればいつでも看護師が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院とはこまめに連絡をとり、状態の把握、情報交換するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時同意書を頂き、緊急時のスムーズな対応にも取り組んでいる。必要に応じ、家族との話し合いの場を持ち、安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。	平成26年に一例、平成27年に一例の看取りを経験している。体系的で詳しい「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」を策定しており、利用者・家族の意思を尊重し、「人は心で生きている」との信念のもと、利用者が安心して最期を迎えられるよう、協力医、看護師、職員が一体となった取り組みをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回救命救急講習、必要に応じ、看護師による勉強会実施		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力のもと防災訓練実施、危機管理委員による防災対策勉強会実施。必要物品の調達。	防災訓練は、年2回、消防署の協力を得て実施しており、夜間想定訓練も行っている。訓練時は、手作りの防災頭巾をかぶって避難している。食料・水の備蓄、反射式ストーブ等も設置している。また、非常口は、スロープに改善され、車椅子でも避難できるような建物になっている。自治会の女性消防隊の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、更衣時などには本人に合わせた対応をしている。	(利用者の)加齢や認知症により「できなくなった思い」を尊重し、出来たことをほめる、励ます等、何げない介助と、さりげなく援助することを心がけたケアに努めている。排泄介助、入浴介助のときは、羞恥心への配慮、不適切な声かけをしないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かする前は必ず声を掛け、本人の意思を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間が掛かってもその人のペースで、生活していけるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今は全く気にしなくなった方でも、家族からの話や以前の本人の言葉などから、好きな色や好みを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜を下準備したり、食べ方を話したり、季節ごとの楽しみがある。米研ぎや後片付けはそれぞれに出来ることを毎日一緒に行っている。	食事の献立は、西棟・東棟、それぞれの日勤の職員が食材の在庫状況を見ながら作っているが、美味しい家庭的な味付けとなっている。職員と利用者は一緒に食卓に着き、年長者の「いただきます」のかけ声に始まり、楽しく食事している。利用者は、買い物、盛り付け、後片付け等を職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師とも相談しながら一人ひとりの状態を把握し、本人の好みを重視しながら、水分、食事量を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に声かけをしている。介助が必要な方にはその方にあつたやり方で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間で声掛けしたり、それぞれにあわせた対応をしている。	トイレ排泄を基本に取り組んでいる。個人の排泄パターンを生活日誌等により把握し、そそのかの動作や個室に行きたがる状況を観察して、さりげなく個別にトイレ誘導をしている。西棟の利用者は、自立排泄をする者が多い。東棟は、介護度の高い方がおり、個々に合わせたきめ細かな支援を行っている。リハビリパンツ・布パンツ・尿取りパット類も利用者に合わせて検討している。トイレには、高さの違う2種類の便器が設置され、利用者が使いやすいように工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、散歩、食事ではなるべく沢山の野菜を使ったり、水分をとれるよう努力しているが、利用者の重度化により、食事量、運動量共に低下しており、便秘の対応はそれぞれ必要になっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事があるとき以外は毎日入浴できるようにしている。	入浴したい日、時間に合わせて入浴していただいている。嫌がる方もいるため、出来るだけ入浴できるようにタイミングを図って、誘導している。週2~3回の頻度で入浴支援をしている。西棟では、利用者の希望により、2人で入浴する方もあり、楽しく入浴ができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベットから起き上がる都度、ベッドメイキングし、いつでも気持ちよく休めるよう整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後、看護師から受けた内容を確認、把握し変化があればすぐに看護師へ報告し対応してもらっている。夜勤者がセッティングし、遅番がチェックをしているが、服薬時もチェックしてからお出ししている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、本人の出来ることを見極め、お願いすることで、本人の役割として張り合いや喜びにつながっていると思う。お酒が好きな方には行事がある時に楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地区の行事への参加や天気の良い日はなるべく外を散歩をするなど気分転換を図れるよう支援している。お墓参りや一時帰宅などは家族と相談し支援している。	日常は、天候をみながら事業所の庭、近くの無人販売所、産直等へ散歩に出かけている。又利用者の希望を聞きながら、近くの公民館の草取りをしたり、ドライブで花見、紅葉狩り、チャグチャグ馬ツコ等を見に行ったりしている。毎日、事業所のベンチで外気浴もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で現金管理している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	のれん、よしずを活用している。季節に合った花を飾ったり、廊下には棟新聞や行事の写真も掲示して、いつでも見て楽しんで頂けるようにしている。	居間兼食堂の共用空間は、東側は、田園が広がり、西側には、岩手山が眺望できる。廊下の壁面には、ドライブ、季節の行事等の写真がたくさん貼られている他、食事メニューも張り出されていて、居心地良く暮らせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間へ上がる所に腰掛けたり、玄関先にはベンチもあり思い思いに過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやテーブルなど好きなものを持ち込んで頂いている。	居室は広めで、利用者に合ったベッド、ストーブ、ボードが備付けられている。利用者は、思い出の写真、馴染みの筆筒、テーブル等を持ち込み、思い思いの部屋づくりをし、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の目線に合わせた物の配置、居間へ上がる際に使用する踏み台を設置するなど配慮している。		